芭蕉翁俳諧

中村俊定文庫
文庫 18
622
1

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

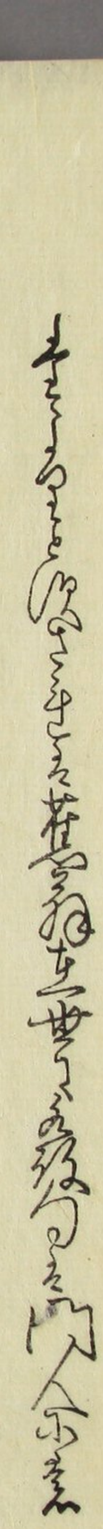
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

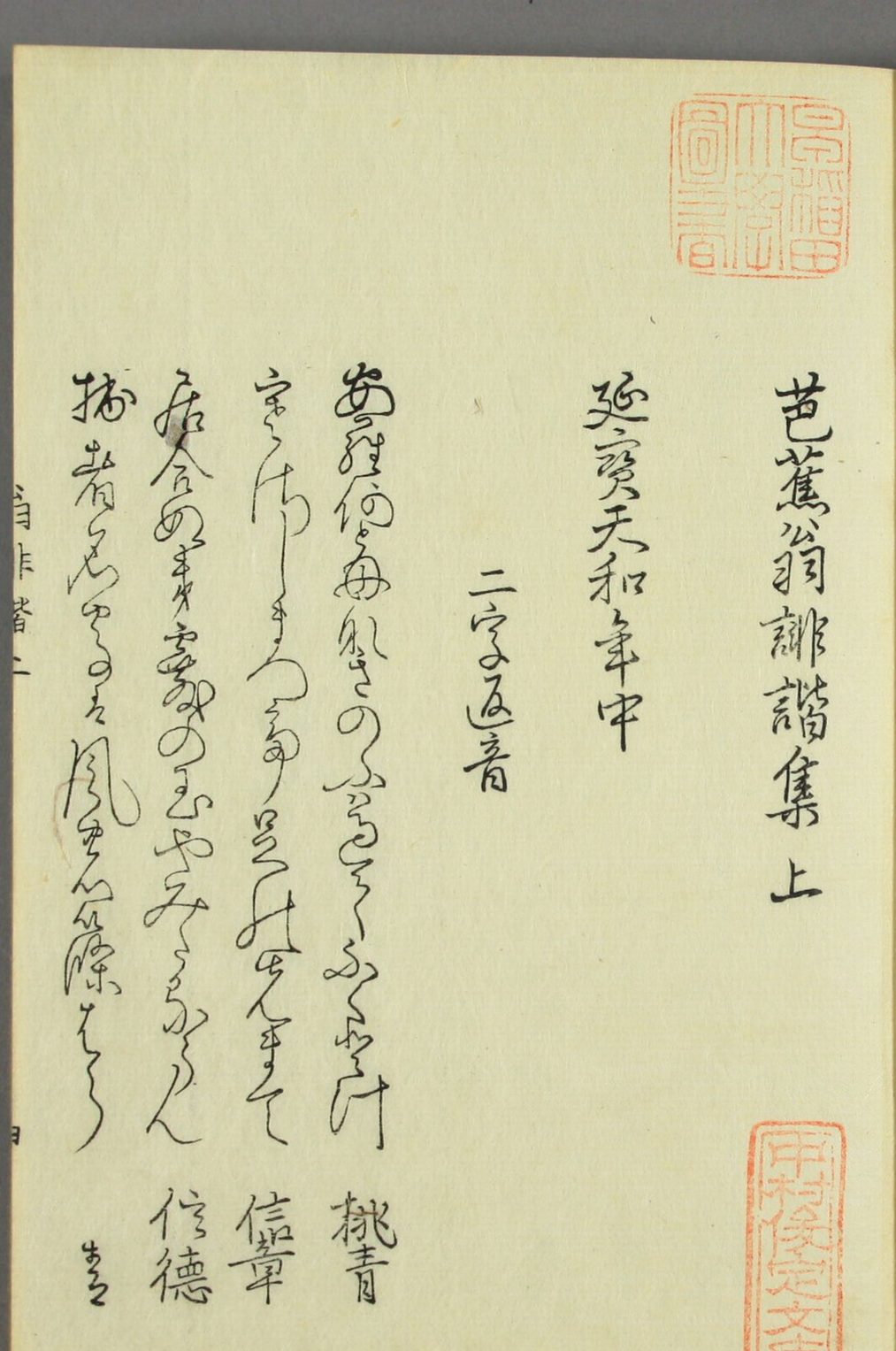


蝶翁幻住庵仏書

東山神楽岡幻住庵示

安永五年春の末

芭蕉翁俳諧系図



京都府立図書館

芭蕉翁俳諧系図上

延享天和年中

二字返音

桃青

信章

信徳

中村俊定文庫

[illegible]

章

[illegible]

徳

[illegible]

青

[illegible]

素

[illegible]

徳

[illegible]

章

[illegible]

徳

[illegible]

[illegible]

素

[illegible]

徳

[illegible]

青

[illegible]

素

[illegible]

徳

[illegible]

素

[illegible]

徳

[illegible]

素

[illegible]

三字中略

[illegible]　信章
[illegible]　信徳
[illegible]　桃青
[illegible]　素
[illegible]　徳
[illegible]　生
[illegible]　章

[illegible]　徳
[illegible]　青
[illegible]　素
[illegible]　徳
[illegible]　生
[illegible]　素
[illegible]　徳
[illegible]　生
[illegible]　章

[illegible]　信徳
[illegible]　青
[illegible]　素
[illegible]　徳

飯何を謝諧

[illegible]　信徳
[illegible]　桃青

[illegible]　信素
[illegible]　徳
[illegible]　青
[illegible]　素
[illegible]　徳
[illegible]　青
[illegible]　素
[illegible]　徳
[illegible]　青

一会の餘[illegible]

かくらを鬼やんの大鉢いくとも　蒙

波ふのり浮勢ふまきり上ぎり　信

神のしの寒さこそ稲の青　青

猩々と夜やん野に切つむ　章

ぐとの打ちたんを引ん面　徳

賞つ寒さの公ぶ蔵ぶ　き

ちもらふ本ふ机ちる鶴　蒙

茅ちれ水風京濃ぶの月　徳

本郷ぶ行ちん祝ふ風ぶ象　き

山梅ぶ本ぶ初ぶ明ぶ屋　機

ぶ一ぶ年　人百ぶ化　信

ぶる面ぶ月ぶ山ぶ夏ぶ　、

鶯味噌ぶ月ぶの牡丹ぶ　き

ぶり津ぶの雲ぶ夜　、

寝ぶ雲ぶ寒ぶ月ぶ男ぶ松ぶ　蒙

雁ぶん山ぶ雲ぶの二百ぶ　、

所ぶ雲ぶ月ぶ月ぶの山　き

ウ

あすもまたこの道をたどる行末の
一ふしあまりいくよの松　素堂
波路遠き海の余所にうつる
なほ聞ぬ笑の聲ぞ　素堂
さらぬ程なれば
森のこずえ風さやぐ　青章
高雲の遠ざかるにつれ
空　素堂
いかまくもの麻の
宮の秋ぞこの道をたどる　青章

岩祥日月そなはる
あけらんの瑞籠の山の陰　素堂
春の風流　御堂

俳春
四友
桃青

ひとそ秋霧ふかしてたゝ
ものゝ月雨ふる月
沖の石屋の神もん雲にて
たゝ〳〵ぬれて
山ちゝ小雲のうつむ
ゝ
ゝ

白雲かゝる春の山ひ　芝
雑沓の人麻呂の梅さく　友
麓に春ぞ清き明ぬる　芝
遊人をこゝろの底や呼ぶらん　芝
大仏殿ちるとてらさぬ春の風　春
春の雨の風に傾く烈しき　芝
清水の白髭の神　芝
玉垣の額のもむさ清や　春
御供の人雲ひとりねる　芝

てらちくさの苔の新芽　芝
延のいとゝ撫て通ぬる井　芝
又ぞ春の酒屋おのの掛茶　春
旬翁　八十の年　芝
よ野山の世をうの世　芝
ちるこゝろとは切のつゝの　芝
花の庭月の表嵐祇園会　芝
芝柳ぞ通ぬ　芝

[illegible]の秋　樵
樹の梢[illegible]十分に月　四友
[illegible]て　似春
山[illegible]　〃
[illegible]人[illegible]　春
[illegible]　〃
[illegible]　春
[illegible]　〃

[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春
[illegible]　春

長崎の遊女有名 青
俤さらさるる梅や笠人 素
寝相ちらと笑まるさま 丶
花の香に鶯山を傳へ 青
ふぬきのこころ月に出る 春

移ろふ人百作 麋塘
きもむかう 二番 山の月 千春
風の音三線の紋とやまもる トス
雨双方一雷とゝろく 暁雲
青うつる李の実乃陳とよりもる 其角
せんく 二カ 芭蕉
霧移ゝ宝や 素堂
移相のうゝ ウ 似素
沉村みを不知月まと抱いて 昨雲

蝶酒に機ありし咲こと寸もる　言水

おふくさまも山際小諸ち　桃隣

粽屑き塩と同じてる　去來

袖摺さ上あ夢の花折れ　尺

小海老爪ツヾの無用慰さむ　雲

悴カジケさる鷺の姿と見やるよ　虫

粽桃の精かくらり立き　蕉

も御坊手おこ鉢あ夢の花梳　角

八架りの月に笠もと揮ハタく

味噌摺より毒かと夜のさ　水

涼しさや蘇の小女　雪

書尽くよ訓駒せんと入る　去

桂枝あ鯱と切らん　春

鷺の足雑を経るるして鉢尾て　桃青

這句以テ荘子ヲ可見矣　其角

粽鳥月花力ある思しうぬ十ろよ　才麿

揚水
角
圭
水
磨
圭
角
磨
水

角
圭
水
丸
圭
角
、
水
角

ゆうどくかたくなり錦奏の為
ニ寛永の比親藩会あり利
博士抵掌と枕して睡る　丸
そもそもの始め安房の声を聞て　青
血涙スリ袖を濡やあふれん　水
ふれまし　角
国獄ヒトヤ正カニ　丸
天寿ふ国安と　水
楠氏楠を　角
桜花ク　青

角は樵の風のうたを聞て沈の小
枕を高くして一家事業の記
白草ヒ新仁和寺村を見る年ル
漁ナリの人ホ郭朝と射ふ　青
所重き体の鰹を腸サカレる　角
安房は出海人牙を磨ク　水
後ウ小ちは山嶺を　水
枸杞を初めは　角
高人の様は　青

[illegible]　丸
[illegible]　圭
[illegible]　角
[illegible]　丸
[illegible]　多
[illegible]　角
[illegible]　圭
[illegible]　水
[illegible]　丸

[illegible]　圭
[illegible]　角

春[illegible]　其角
[illegible]　牙丸
[illegible]　揚水
[illegible]　桃青
[illegible]　丸

鞍山（サンロ）繽紛せる　角
夕ぐれの雲とかくまでに　青
春盛りの野山とおもふ　水

ウ
雨の雲ふりけるに　角
青葉の小葉ふるふ　丸
ちりぬべき花の散りて　水
なほ切なる鶯の　青
神ぶる春の夢の　丸
あ〜いとしく　角

女の新婚をうたへて踊をる　青
美人の美貌にうつる　水
ストント。美人入浴　角
うりあ〜ぶ狂言の仕ぐさ　丸
秋の末つ方浴場の窓にて　水
蔦の流れ　沸騰をうふ　青
色銅　今人の美を隠ぐり　丸
ニ
ヌ
るの色は青を富て流れ　角
渾沌（ヌッホウ）　思ひて氣が抜ふ　青

鹿(カ)の山　水
雲のうの礼女度の舞のある箭　角
吉原君をぬきみいきるる　麿
棒軍窃(ウイ)やつふぜ止つ　水
つさ引ん張らり拝弦引　青
箇(トミ)の風を徒ぬ丹ちるまを　麿
摩訶(カ)石坊つ若奈(ナイ)園(コウ)せる　角
愛を拾る拾毗盧遮阿(ヒルシャアラウ)毗羅呼　青
風高う阪さ高りふく　水

夜の食合へ寝えるるの八　角
朝のるるく月の秋へ丹(タツカ)月て　九
月の秋へへ丹月て　九
寝てしもむ妹ら高髪　青
拾つ鎖る新乃弱よ　九
拾る風りの風て法　角
小神るる本秘る筆さる　青
紐の神(モノイミ)を祝ふる　水
煤掃へ礼(ニ)用(ニ)於鯨へ脯(ホシラ)　角

九
水
青
磨
角
青
水
角
九

九
揚水
桃青
其角
水
九
角
青

ウ

九　水　吉　角　水　九　角　吉　九

二

水　吉　角　水　九　角　吉　九　水

風の音角角を指る　青
人の山を指て　のり　角
雷丸斧　下て　多
ヲノ　ライ　ハチ
玄又　玄　龍郎の　国　九
俗のいふ鹿狩の海の鹿ヲ　角
郎のり丸東　赤地　赤　青
アカ　ニシ　ヒガシ
何ぞ云て　鮑の殊て　九
もろ〳〵の　〳〵　面　水
月と青多　葉の行　玄

栗刑　ク　玄　角
霧の　丸　水
水　郎　九
釜　人　角
椎　る　玄
古　丸　九
いち　ホコラ　水
麻の　イチ　玄
かち　キ　角

さらさらと清き流れに住居す　水九
明る夜清き月とうけ流る　九角
雲の上人今宵の程の月　角
人家と絶て山寺の月　シャウ
石の回り苔清き夏の程　丈九
木もまばらうたゞ風の秋　九水

負享之五年

秋夜々〻寒き所生れ方の秋　芭蕉
夜〻〻せまるる所　雪　一井
夜〻〻の月と共の夏の夜　越人
秋深と月入て　昌碧
琴持て世に出る人の　花の兮
清き月と共に夏の夜　梦仆
ウ
鶯なきて夜の月　東籬

みちのくの奥ふかきあるじ　芭蕉
投げ捨てまこもの花のさよ　井
乳を飲ませの子の泣く　人
麻布を縫ひ合せて織り出す　碧
蘭とうちうちんの袖を出でよ　今
白雨の出でぬやうなる雷の声　仲
うらぶれあるうぬ山路の鶯　騰
小雪庵のそまつを袖に村雨を　芭
乾あるうるほのそまつる日　人

風のかたちは花のうちうち　今
負ひ捨て猿を遠ぬる　碧

貞享三寅年

月雪とうちうちの歩み　玄蘭
初ふうう美吉野の桜の雲　文鱗
雪村の柳ふたり梅さて　松風
酒屋慣(ナラ)ひて入るこの世界　コ商
妹の山ふもとの月　雲堂

岩へ竜こうてみてらく　板風
雲くゝ清き夏木はうの松こうり　仙化
つゝの夏ふゝ弱ゝ一夏度ひとよ　李下
ウ
新まゝ紅弱ゝとあむしゝふかい　峯白
金仏ゝ相ふ僧いつくゝ刺　朱絃
清しくゝ寺敬の奥ゝとんゝ人　敬豆
敬ゝ世来ふ　むゝ来ゝ　子里
有明ゝ梅ゝ高僧ゝ月程　芭蕉
ゝゝ世ゝ家ゝ高のゝん朝　桃雪

情ゝ一宿の未様ゝゝ　鮮
清住女ゝめゝゝ　角
山ゝゝ剣ゝの むゝ様ゝ野ゝ　春
金ゝ甲斐ゝ　仏ゝゝ　板
清のゝゝの利鑁ゝ　杉
ゝゝゝのゝゝ　重
ゝゝゝゝ軍新ゝ　杉
清ゝゝ小ゝ清ゝ場ゝ　化
二
ゝ雪のゝゝ葉ゝゝ　猿

白
黑
蕙
枳
奇
角
鱗
白
下

化
絃
黑
角
下
枳
蕙
化
高

門を出れば秋の寺　白
野ふみ分て拾ふ武士の七夕　里
行くゝ野の牧を撰ぶ小鷹の　角
鶏の一聲ならぬ秋の夜　餘
紅葉を踏て秋を見るうら　下
稲妻の木の間ゆ花のぬけ出て　白
つまとれば雪の野辺の蕎麦畑　枳
人の来る田の面の稲とかつぎ物　楊水
酒ぬり（いさむ）物の合ひ　同
弦

三

武蔵国と名のる国の名は
京を限りの碓井の水　角
玉川の抑の水　麻
江湖の名を木にきれ利　蕉
和乃国清水乃国武　化
竹ゝ切ゝ　主
黄ゝ菊ゝ　水
新敷ゝ　不
餅ゝ　卜
餅ゝ餅ゝ　鱗
餅ゝ餅ゝ餅ゝ　風

蕉風

鱗下

高春

弦化

蕉

絃

下

水

角

蕉

高

言

あるいはこれをのぶ屋

石 傾城とこそきめさのふかくふる

雛 ゆきみるるの雪のうへ

重 ゆきのはるかなるかなて

白 ゆきのはるかなるかなて

高 梅はまことに花のうるはしき

焼水 村雨の石はなれ打ちぬ

化 鮑とる夜の浦の風

卜 伊勢とは本をたのもしき

卜 けやきうつる秋

信長は治まるはやの西の

水 石はまことにかの園のいん

鱗 ゆきはあはれ雪のまことかな

春 雲はまことにあるかとも

水 岩根ふるこそ花のひとえ

角 ゆきのうへ

京 ゆきはあはれ

化 ゆきはあはれ雪とも

重 ゆきの雪山

水 ゆきのうへ

[illegible] 角
舟いくの[illegible] 風
[illegible]る松[illegible] 白雪 水
[illegible]の七[illegible]花[illegible] 卜
連[illegible]くて[illegible] 白

花[illegible]七日[illegible]る梅の郷 芭蕉
慢く[illegible]る 細[illegible] 清風

[illegible]て 峯白
米一[illegible]る実の[illegible] 曾良
名月を[illegible]る枝 コ斉
枝[illegible]来 桐の[illegible]刈 其角
ウ
[illegible]の[illegible] 凡
問[illegible]の下[illegible] 白
[illegible]の[illegible] 言
一[illegible]の[illegible] 蕉
松明[illegible]君雅 角

はつ花のしゐるゝ水ふるゝ　風
新そうきあめ敷と世を頼ん　言
ゝゝの鶯と花ふ山ち　斧
雪とゝもつ櫻やさゝふ雪ゝゝ　白
虹のゝゝめゝ日を白新雪　角
門に温泉とさゝ人雨ゝ　蕉
ゝゝ中康ち夫と有ふ　京
いゝゝ軍ゝ氣なる新薄　嵐雪
男新ゝゝ白粉とめふ　凡

膝琴ゝ前の風雅とゝもゝる　角
源をゝ牡丹ちゝつゝ　白
ゝゝ姉ゝ去ゝ新ゝ次　蕉
つゝ新ゝ新ゝ清水ゝ雪　言
札燈て刀ふゝ雪とつゝ　凡
我ゝつ雪と　郭公は笠　角
櫻ゝち粗新ゝゝ源氏て　斧
京ち春夜ゝゝ踊ゝ年　雪
寺ゝゝ物ゝ人の猫ゝ　白

[illegible]　蕉
唐の文[illegible]　宮
惹かしら[illegible]　京
[illegible]　凡
仏[illegible]　蕉
おもしろ[illegible]　角
車[illegible]　白

破風[illegible]　芭蕉
蠅避[illegible]　素堂
合歓[illegible]　馬上
かさ[illegible]　蕉
月代見金氣　堂
露繋添玉涎
猿[illegible]　蕉
情[illegible]　堂
契筆驅偷嵐

[illegible] 沖祝屋　蕉

[illegible] 柘の撥　〃

[illegible] 何とかなる　〃

舟鎗（ニヒ）　風早浦　堂

鐘絶（ユ）　日高川　〃

[illegible]　蕉

[illegible]　〃

詑（ハ）教（ニ）三社（ラ）本（トシ）　〃

韻（ハ）使（ニ）丑連（ニ）車（ラ）項（イニスエトス）　堂

苍月丈　山閑（ロ）　堂

[illegible]　蕉

剪銀　鮎　一寸　堂

[illegible]　蕉

[illegible]　〃

風飡　唯　早乾（ノ）　〃

[illegible]　堂

[illegible]　蕉

霧離　韻　孰（イツレ）與　堂

霧浦　月潛（ナミタクム）　蕉

蒼茫として海小川の霧の堂

ウ
ひとれめ移る野辺の鶴　蕉

山伏　山平地　雪

門番　門小天

鵜鶏　窺水鉢　蕉

雲のもとより明るやあり　堂

奥深く初潮の音聞ふるえて　蕉

臨谷伴蛙仙　雪

河ふかく秋ふかしこの枝の下　露沾

屋ふかく夜ふかし風の目　芭蕉

山陰小川河鹿の聞ふる　沾蓬

戸さゝぬ里の一早川の水　其角

くまとくさ法の花根ぬ露　露荷

ウ
ものゝ松　枝取ぬ松　沾行

傘の骨ふかし　蕉

参詣の人々神山の氏　沾
あつまりよせし宿の声　芝
さゝ一ゝよりかへりる　蓬
山もたゝみ大の山陰　角
数ある僧ゝ修験者ゝ　芝
高ゝ堂塔倉の奥ふか　沾
しるる枝ふ白ふ菖蒲　蕉
月清ゝ白ふ清ふ水　蓬
ゆゝ生ゝて鯉ゝ寄　角

花咲ゝ人ゝ中の唐笠の底　芝
影枝ゝ山ふふの猫　荷
信濃路やたゝ一ゝ仮ゝ寝ゝて　沾
磬ゝ一ゝ響ゝ一ゝ響ゝ　沾徳
橋の柴ゝ集ゝ書ゝ　蕉
中ふ四ゝ書ゝ一ゝ夷　芳
掬ゝ水ゝ月ゝ清ゝ　芝
琴ふ弾ゝ秋の影ふ　蓬
ゆゝ一ゝ聴ゝ秋の寿　荷

九輪草かさすに庭をうるる雨　沾
風のまるるまつ葉のいとゆふ　蓬
大石をたのみて庭に苔掃　蕉
うゑ木に鳴れもしるるの木さゝ　沾
ウ
ゝらと笹と編うるを書　荷
一柳の記念の連歌抽出す　芝
岩に咲めるを越の戦ひ　沾
雨に洗ふもむる男つ実　蓬
法隆寺と高麗物語の声　芝

雑草の花を抱き寄るる　沾荷
紙屋の雨世の芋の粒ゝ　芭蕉
霧の中に隠る松えて　露沾
蛍ゝ花ゝ不ゝの露　荷
入日の薄仕舞ふ武蔵一人　蕉

業のかなしさ　笑ふのやる　沾

山ちかく　柳ちらつく　荷

雲間なく　酒さかり　蕉

夕霧の　日くらかりける　鞠のまる　沾

白玉椿の　姫とむこ　荷

強盗と　探索ひしく　蕉

ちらちら　雪かなし　沾

出家記　法の鈴　荷

何と　桜大ふ　ふれおちり　蕉

桜の日　ちらつく　伊賀　荷

淀つよく　あ　鶏　沾

ちらちらの　花や　帰るべん　蕉

四十雀　ちらり　風　ぬ　尚白

江橋　ちらつ　面　雀　不　酒子

ちらちら　雪　おれ　かしり　みち　芭蕉

男　指ひ　ゆ　孫　ちら　嵐雪

碎くる人の角ふるうて　其角
ふるの加ちくしに面白や雅の数　蕉
柏松　菊杉鶴のたちうん　る
ウ
池の梅ちくそめ始めて　角
漢文帆乃ちゆる風程　雪
世乃中を西ちの春の朝　る
妹つか山ら共庵梅やちよ　蕉
記念ふ賦の礼ちるよ　雪
茅に居ちく閑ちん新勢　る

大

漢の字ちん雅俗ちて　蕉
二夜ちの月ちの舞ちさひ　雪
一巻ちん書ちと止ちむる　る
菊代ちの西ちの面ちまち松ち　雪
雪ち茅ちのいちつのむふんち西ち　蕉
称写ちうるち芭ち月　る

芭蕉翁弱謝諧集　上終

色葉字類抄 三冊

井筒屋庄兵衛
橘屋治兵衛 合刻